

| | |
|--------|--|
| 事案名 | 銚子沖の事案（千葉県12-1） |
| 分類 | <p>廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理 現在の状況</p> |
| 資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・『続・銚子市史 昭和前期』昭和58年〔1〕 ・「千葉県における漁業補償」昭和45年3月〔2〕 ・「昭和48年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について（回答）」平成15年8月29日〔3〕 ・『朝日新聞』昭和34年7月2日〔4〕 ・「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」昭和45年3月〔5〕 ・「銚子沖イペリット缶等第二次掃海事業報告書」昭和45年10月〔6〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔7〕 ・「銚子沖イペリットかん等引揚経過について」〔8〕 ・「千葉県銚子港外における不発弾調査について（報告）」昭和48年10月22日〔9〕 ・「銚子沖での毒ガス缶などの発見一覧表」〔10〕 ・「旧日本軍毒ガス弾の発見・処理状況」平成6年10月12日〔11〕 ・「旧軍毒ガス弾等の全国調査のフォローアップ調査結果」〔12〕 ・『朝日新聞』昭和26年4月6日〔13〕 ・『朝日新聞』昭和26年4月7日〔14〕 ・『朝日新聞』昭和26年4月11日〔15〕 ・「毒ガス弾等調査資料」昭和47年6月5日〔16〕 ・『千葉日報』昭和32年9月15日〔17〕 ・『千葉日報』昭和37年8月24日〔18〕 ・銚子沖イペリットかん等引揚事業実績〔19〕 ・『千葉日報』昭和49年11月14日〔20〕 ・『朝日新聞』（京葉版）昭和49年11月14日〔21〕 ・『朝日新聞』昭和51年9月5日〔22〕 ・茨城県魚政課資料〔23〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年10月9日〔24〕 |
| 資料内容概要 | <p>千葉県銚子沖では、戦後、占領軍の指揮のもと、各地から集積された毒ガスが海洋投棄された。同海域では、戦後間もない時期からイペリット缶等の発見や被災事案が多発している。</p> <p>なお、本事案については、千葉県沖及び茨城県沖の海域を示すものとする。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> |

- ・ 昭和20年10月15日に米第8軍第24火砲中隊(約150名)は、旧日本軍の残存弾薬・爆弾・毒ガスを銚子沖に廃棄するため、銚子に本部を設置した。処分する弾薬は長野、福島、静岡県方面から鉄道で輸送され、その爆弾、砲弾の量は貨車で4800車両、うちガス弾等は約30車両もしくは320車両であったといわれている。米軍の指揮のもと、投棄作業は漁船によって行われ、昭和20年10月から翌年5月にかけて銚子一の島灯台北東15哩周辺の海域、水深約200mに投棄したとしている〔1〕〔2〕。

発見・被災・掃海等処理情報

- ・ 銚子沖における毒ガス弾等の発見状況・個数について、各資料に示された数値は別紙1のとおりである。被災事件については、別紙2のような状況である。
- ・ 掃海作業は、昭和32年9月13日に漁船が銚子市一の島灯台東北東約27kmの海域で操業中に鉄製セメント樽容器を引き揚げて被災したことを受けて、昭和34年6月25日から7月1日までの間に実施されたが、毒ガス缶は引き揚げられなかった〔3〕〔4〕。
- ・ 銚子一の島灯台北東約15海里の海域は好漁場であった関係で、昭和44年11月初旬から45年1月までの間に9隻14件がイペリット缶を引き揚げ、15名が負傷していることが判明した。このため同年中に2回にわたり掃海が行なわれ、イペリット缶33個を揚収した〔5〕〔6〕〔7〕。
- ・ 昭和46年度からは、缶等が入網した場合は海上保安部の巡視船に引き渡し、その際に生じた損失等に係るものに対して国・県において一定額を補助することとなった〔8〕。
- ・ 毒ガス弾等の目撃情報としては、昭和48年10月16日～19日に地元のダイバーがイペリット缶らしき物体を発見したとの通報を受けて横須賀水中処分隊が出動したが、海上模様不良により搜索を断念した〔9〕。

現在の状況

- ・ 銚子漁港は現在、千葉県が管理しており、主にまき網漁業、底引き漁業、はえ縄漁業が行なわれている。今後の主な事業計画としては、川口外港地区における西防波堤、内防波堤の整備や、黒生地区における外郭・水域施設、輸送道路施設等の整備がある〔24〕。

【別紙1】銚子沖における毒ガス弾等の発見状況

| 料源 年 | 国土交通省の情報〔10〕 | 農林水産省の情報 〔12〕 | 防衛庁の処理件数〔11〕 | 千葉県の情報 (千葉県資料) |
|---------|-----------------------------|---------------------------------------|--------------|---|
| 昭和26年 | | | | 弾 1 〔2・13・14・15〕 |
| 昭和32年 | | 発見事件 4 件 | | 鉄製容器 1 〔5・17〕 |
| 昭和33年 | | | | 弾 1 〔18〕 |
| 昭和42年 | | 発見事件 1 件 | | 不明 1 〔5〕 |
| 昭和44年 | | | | 不明 2 〔5〕 |
| 昭和45年 | | 発見事件 7 件。 これとは別に掃海事業で 缶を 33 個掃海 | | 発見事件 7 件。 2 回にわたって掃海を実 施し、33 個掃海〔5・6〕 |
| 昭和46年 | ドラム缶 17・つぼ 7・ 不明 3 | 26 | | 30 (46 年度)〔19〕 |
| 昭和47年 | ドラム缶 33・つぼ 5・ 小型 2・不明 1 | 40 | | 39 (47 年度)〔19〕 |
| 昭和48年 | ドラム缶 16・つぼ 11・ 小型 1・不明 1 | 29 | | 34 (48 年度) 〔19〕 |
| 昭和49年 | ドラム缶 3・つぼ 16・ 砲弾 1 | 20 | | 13 (49 年度)〔19〕 |
| 昭和50年 | ドラム缶 7・つぼ 9 | 17 | | 30 (50 年度)〔19〕 |
| 昭和51年 | ドラム缶 19・つぼ 11・ 不明 1 | 31 | 2 | 18 (51 年度)〔19〕 |
| 昭和52年 | ドラム缶 9・つぼ 6 | 15 | 3 | 11 (52 年度)〔19〕 |
| 昭和53年 | ドラム缶 17・つぼ 10・ 不明 1 | 29 | 1 | 26 (53 年度)〔19〕 |
| 昭和54年 | ドラム缶 20・つぼ 6 | 24 | 1 | 22 (54 年度)〔19〕 |
| 昭和55年 | ドラム缶 12・つぼ 4 | 18 | 2 | 9 (55 年度)〔19〕 |
| 昭和56年 | ドラム缶 7・つぼ 2・ 不明 2 | 11 | 1 | 7 (56 年度)〔19〕 |
| 昭和57年 | ドラム缶 7 | 10 | 5 | 7 (57 年度)〔19〕 |
| 昭和58年 | ドラム缶 7・つぼ 4 | 10 | 2 | 7 (58 年度)〔19〕 |
| 昭和59年 | 不明 3 | 8 | | 4 (59 年度)〔19〕 |
| 昭和60年 | ドラム缶 1・不明 1・ つぼ 2 | 4 | | 4 (60 年度)〔19〕 |
| 昭和61年 | ドラム缶 2・缶 1 | 3 | | 1 (61 年度)〔19〕 |

| | | | | |
|---------|---|-----|----|---------------------------------------|
| 昭和62年 | ドラム缶 1・不明 1 | 1 | | 1 (62年度)〔19〕 |
| 平成元年 | ドラム缶 1本・不明 1 | 2 | | 1 (元年度)〔19〕 |
| 平成 3 年 | | | | |
| 平成 4 年 | ドラム缶 1 | 1 | | 1 (4年度)〔19〕 |
| 平成 14 年 | ドラム缶 1 | 1 | | |
| 合 計 | ドラム缶 181・つぼ 93・缶 4・小型 3・砲 弾 1・不明 15 総計 297 | 338 | 17 | 298、その他に弾 2・鉄製 容器 1・不明 3 総計 304 |

(表に記されていない年は発見事案が報告されていないので省略している)

【別紙2】銚子・銚子沖における毒ガス被災事例

| 日付 | 場所 | 概要 | 資料 |
|------------------------------|------------------------------------|--|---|
| 昭和26年 4月2日 | 銚子市 | 海岸で男性が鉄製のガスつぼを拾い、自宅で解体中に9名が中毒し、4名が失明。男性とその母親、男性の長男の3名が死亡し、6名重体。 | 「朝日新聞」昭和26年4月6日〔13〕 「朝日新聞」昭和26年4月7日〔14〕 「朝日新聞」昭和26年4月11日〔15〕 「千葉県における漁業補償」〔2〕 |
| 昭和29年 6月29日 | 銚子沖 | サルベージ会社(爆発物件等引揚業者)が作業中に60kgイペリット爆弾2発を引き揚げて作業員6名が被災した | 「毒ガス弾等調査資料」〔16〕 |
| 昭和32年 9月13日 | 銚子沖 (一の島 灯台東北 東15マイ ル) | 漁船の底引き網に鉄製セメント樽用容器(直径10m、高さ1.2m)1個を引き揚げ、直ちに海中に投げ捨てたが乗組員9名が全治4ヶ月の重症を負った。 | 「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕 「銚子沖イペリット缶等引揚経過について」〔8〕 「千葉日報」昭和32年9月15日〔17〕 |
| 昭和33年 | 銚子沖 | 網にかかったガス弾を船上で分解しようとして17名が中毒した。 | 「千葉日報」昭和37年8月24日〔18〕 |
| 昭和42年 9月26日 | 銚子沖 (一の島 灯台NE15 マイル) | 漁船がイペリットを発見し、5名負傷。 | 「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕 |
| 昭和44年 11月 | 銚子沖 | 漁船2隻がイペリット缶を引き揚げて、うち1隻の乗組員が流涙がとまらなかった。 | 「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕 |
| 昭和45年 1月17日 (17~25) | 銚子沖 (一の島 灯台北東 約15海 里) | 漁船が底引網でビール樽のような缶を引揚げ、5名が負傷。その後、3隻の漁船もイペリットを引揚げ、15名が負傷。 | 「銚子沖イペリットかん等緊急掃海事業報告書」〔5〕 「千葉県における漁業補償」〔2〕 「読売新聞」夕刊昭和45年1月21日 「千葉日報」昭和45年1月23日 「朝日新聞」昭和45年2月5日 「毎日新聞」昭和45年2月5日 |
| 昭和45年 1月25日 | 銚子沖 (一の島 灯台北東 約15海 里) | 沖合い底引き船が操業中にイペリットガス缶(つぼ型)が入網。乗組員7名が目の症状を訴え銚子市内の眼科で診察を受ける。44年11月から漁船7隻、乗組員30人ほどが重軽傷の被害にあっている。 | 「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕 |
| 昭和45年 3月3~11 日 | 銚子沖 | 銚子沖の掃海作業で、イペリットにより漁民8名負傷。新聞報道では9名負傷とある。 | 「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕 「朝日新聞」夕刊昭和45年3月3日 「毎日新聞」夕刊昭和45年3月3日 「毎日新聞」昭和45年3月4日 「千葉日報」昭和45年3月4日 「千葉日報」昭和45年3月7日 「千葉日報」昭和45年3月10日 |
| 昭和45年 9月16日 ~10月2 日 | 銚子沖 | 銚子沖の掃海作業で、イペリットにより漁民7名負傷。新聞報道では8名負傷とある。 | 「銚子沖イペリット缶等第二時緊急掃海事業報告書」〔6〕 「千葉日報」昭和45年10月3日 |
| 昭和49年 11月12日 | 銚子漁港 | 銚子漁港岸壁拡張工事現場で、海底をさらって旧軍の砲弾探しを行っていた浚渫船が土砂とともにイペリット弾を引き上げ、1名負傷。 | 「千葉日報」昭和49年11月14日〔20〕 「朝日新聞」(京葉版)昭和49年11月14日〔21〕 |
| 昭和51年 9月3日 | 銚子沖 (犬吠崎 沖東北東 約30km) | 昭和51年9月3日、銚子市犬吠埼沖(利根川河口北東約18~19マイルの海域)で茨城県波崎町の漁業者が小型底引き船で操業中、網に付着したイペリット剤(ゼリー状の塊)に触れ、5人が重軽傷を負った。 | 「朝日新聞」昭和51年9月5日〔22〕 |
| 平成14年 3月26日 | 茨城県鹿 島郡大洋 村汲上の 東30km沖 | 平成14年3月26日、茨城県鹿島郡大洋村汲上の東30km沖で操業中の漁船の網にイペリット缶が入網し、缶は曳航中に海底に落下したが、網に付着していたイペリット剤により3人が軽傷を負った。 | 「茨城県魚政課資料」〔23〕 |

| | |
|--------|---|
| 事案名 | 習志野の事案（千葉県122） |
| 分類 | 生産・保有 廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理 現在の状況 その他 |
| 資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・『陸軍習志野学校』1987年〔1〕 ・『習志野市史』第1巻通史編、平成7年・同『習志野市史』第4巻資料編（ ）平成6年〔2〕 ・『学校が兵舎になったとき』1996年〔3〕 ・証言〔4〕 ・Target No. 1453 (Narashino) Technical Intelligence Report of Captured Japanese CW Material (Narashino)〔5〕 ・証言（昭和48年調査）〔6〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔7〕 ・『朝日新聞』（昭和26年10月19日）〔8〕 ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」〔9〕 ・「毎日新聞」夕刊連載記事「化兵のとりで」（平成7年5月17日・5月24日・5月31日・6月7日）〔10〕 ・証言〔11〕 ・『毒ガス戦関係資料』1997年〔12〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年10月9日〔13〕 |
| 資料内容概要 | <p>千葉県習志野には、昭和8年に創設された陸軍習志野学校跡が存在する。陸軍習志野学校は、毒ガス戦の教育と毒ガス兵器の運用研究を行なう機関であり、毒ガスの交付も行われた。戦後、同地域から毒ガス弾等が発見された事案がある。なお、「千葉県習志野」には、千葉県習志野市以外に千葉県船橋市、千葉県八千代市の市域が含まれる。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毒ガスを用いた教育や研究が行われており、毒ガスが交付されていたことが確認される〔1〕〔2〕。また、特殊なガス室（八面房）跡も確認されている〔3〕。 ・昭和16年に習志野学校で毒ガスに関する訓練を受け、イペリット、ルイサイト、催涙ガス、火炎瓶を扱ったという証言と、昭和19年11月から習志野学校で1週間毒ガスの教育を受け（被災したときの応急措置等）イペリットの2斗のドラム缶数百本野が積みされていたのを目撃した（射場の裏側）という証言が得られている〔4〕。 ・習志野学校の設備・機材等について記載されている〔5〕。 |

廃棄・遺棄情報

- ・終戦時、イペリット・ルイサイトなどが「若干」残存し、「一部は自ら処分、大部分は進駐軍に引渡しその監督下に処分」した〔1〕。
- ・元関係者の証言として、「終戦時、イペリット缶とルイサイト缶（合わせて約6 t）・青酸ボンベ（若干）を保有しており、これらは学校敷地内において晒粉で中和し埋設し（材料廠付近地下）青酸は大気に放出した。また、これとは別に各種毒物若干を銚子沖に投棄した」と記載されている〔6〕。

発見・被災・掃海等処理情報

- ・昭和26年6月28日、千葉県習志野でルイサイト入りの缶3本発見により演習中の自衛隊員14名負傷したと記載されている〔7〕。
- ・連合軍総司令部は、埋設されていた日本軍の毒ガスを、昭和26年10月24日を予定として千葉県習志野の米軍兵舎内で焼却処分すると発表している〔8〕。
- ・昭和35年2月17日から19日にかけて、千葉県習志野で、ルイサイト入りドラム缶1個が発見されたと記載されている〔7〕。
- ・昭和35年3月4日から11日にかけて、千葉県習志野で催涙剤（固体）10kgが発見され、土地の除染と海洋投棄を行ったと記載されている〔7〕。
- ・昭和37年8月21日に、千葉県習志野でイペリット弾8発が発見されている〔9〕。
- ・昭和37年9月に、千葉県習志野でイペリット弾2発が発見されたと記載されている〔7〕〔9〕。
- ・昭和39年11月18日に、千葉県習志野で旧軍ガスボンベ6本（大2本・小4本）が発見されたと記載されている〔7〕。

現在の状況

- ・陸軍習志野学校跡地は戦後、警察署、教育施設、県営住宅、関東財務局宿舎や関東財務局の未利用地となっている〔1〕〔11〕。
- ・平成6年に合同宿舎の建築に当たり地下埋設物の状況について関東財務局の調査が行われ、八角形の基礎及び煙突状建築物などが確認されている〔10〕。
- ・平成15年5月8日に、旧軍習志野学校跡地において、水質調査が行なわれたが、異常はなかった〔13〕。
- ・平成15年7月28日に、旧軍習志野学校跡地で、現在、保育所となっている土地において、ヒ素に関する土壌調査が行なわれたが、異常はなかった〔13〕。

その他情報

- ・なお、習志野学校跡地に所在するわけではないが、近傍にある陸上自衛隊習志野演習場に関して、陸上自衛隊第1空挺団（船橋市）に所属していた元自衛隊員から以下のような証言があった。「昭和40～41年ごろ、習志野演習場内にある松林内の高圧線の近くに約20m四方の縄を張った立ち入り禁止区域があり、そこにはイペリットが埋められているとので、当時、隊員には立ち入り禁止の指示があった。昭和40年ごろはここには草も生えなかったが、昭和44年ごろから草が生え、立ち入り禁止区画の縄も除去された」〔11〕。
- ・終戦時における習志野学校の配置図が存在する〔12〕。

| | |
|--------|--|
| 事案名 | 富津沖の事案（千葉県12-3） |
| 分類 | <p>廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理 現在の状況</p> |
| 資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・「富津沖合緊急掃海事業報告書」昭和51年1月〔1〕 ・『毎日新聞』昭和50年10月17日〔2〕 ・『朝日新聞』昭和50年10月18日〔3〕 ・「東京湾富津沖合における毒ガス弾等の処理について（報告）」昭和50年12月22日〔4〕 ・『朝日新聞』夕刊昭和50年11月12日〔5〕 ・『朝日新聞』夕刊昭和50年11月14日〔6〕 ・『千葉日報』昭和50年11月15日〔7〕 ・『朝日新聞』夕刊昭和50年11月15日〔8〕 ・『千葉日報』昭和50年11月16日〔9〕 ・「イペリット爆弾引揚状況一覧表」〔10〕 ・「浦賀水道航路No.4浮標付近にて発見された爆発物の調査処分について（横処分28号55.7.12）」〔11〕 ・「『旧軍毒ガス弾等のフォローアップ調査について』」平成15年10月9日〔12〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔13〕 |
| 資料内容概要 | <p>昭和22～23年頃に、作業船から、旧日本軍の爆弾や爆弾箱らしきものが富津沖に投棄された。富津沖では昭和50年に毒ガスによる被災事件が相次いで発生したことにより、同海域での掃海事業が実施された。その後、発見や被災事例は、昭和55年まで発生している。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証言によれば、「証言者は昭和22年～23年頃に、横須賀を出港した作業船から、旧日本軍の爆弾や爆弾箱らしきものを、第三海保南側水域から第二海保及び大貫沖合の水域にかけて投棄したものと思われる」と記載されている〔1〕。 <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年6月19日に、浦賀水道中央4号ライトブイの東20m付近の地点で、漁船が爆弾らしき物体（長さ60cm、径20cm、黒色で両端が円錐状）を引揚げた。物体に危険を感じたので、現場に投棄した。乗組員2名は、物体から流れ出した液体により水疱が発生し通院加療した〔1〕〔2〕〔3〕。 ・昭和50年9月7日に、第二海保灯台から128度2.1マイルの地点で、漁船がイペリット、ルイサイトなど糜爛性ガ |

| | |
|--|--|
| | <p>スと思われる物体（長さ50cm、径約20cmの円筒形。重量20～30kg）を入網したが、悪臭がするのですぐ海中に投棄した。投棄時に飛沫を浴びた乗組員2名に水疱ができ、通院加療した〔1〕〔3〕。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年10月10日に、漁民1人が手首に被害を受けた〔3〕。 ・昭和50年11月9日から18日までに、東京湾富津沖で旧海軍60キロ爆弾（イペリット）が6個発見され、自衛隊がコンクリート詰めにした後、海中投棄されたと記載されている〔13〕。 ・昭和50年11月10日から17日までに、富津沖で掃海が行われ、イペリット弾2個を揚収し、コンクリート詰めにして再投棄した〔1〕〔4〕。 ・水産庁・環境庁・厚生省・防衛庁・海上保安庁・千葉県の合同掃海作業で〔5〕、昭和50年11月14日に漁船がイペリット弾らしい1発を引揚げたが、2名が炎症を起こした〔6〕〔7〕。また、11月15日に漁船がイペリット弾1発を発見した〔8〕〔9〕。 ・昭和53年7月5日に、漁船がイペリット弾（長さ1m、直径50cm）を引揚げ、引揚げたイペリット弾は海中に落とした〔10〕。 ・昭和55年6月25日に、イペリット弾と思われる物体を発見し、7月10日海上自衛隊に引き渡した〔10〕。 ・昭和55年6月25日に、漁船が引揚げたガス弾1発を横須賀水中処分隊等が処理を実施した〔11〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、富津沖は、小型底引き網漁業、刺し網漁業、まき網漁業、のり養殖漁業等が行われている〔12〕。 |
|--|--|

| | |
|--------|---|
| 事名 | 松戸市の事案（千葉県12-4） |
| 分類 | 発見・被災・掃海等処理 |
| 資料 | ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔1〕 |
| 資料内容概要 | <p>千葉県松戸市において、催涙臭のする円筒6個が発見され、一般不発弾と共にコンクリート詰めされた。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <p>・昭和57年8月13日に、千葉県松戸市で発見された直径7cm・長さ16cmの催涙臭のする円筒6個を一般不発弾と共にコンクリート詰めにしたと記載されている〔1〕。</p> |

| | |
|--------|---|
| 事案名 | 市川市の事案（千葉県12-5） |
| 分類 | 発見・被災・掃海等処理 |
| 資料 | ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔1〕 |
| 資料内容概要 | <p>千葉県市川市において、旧軍毒ガス試臭器1個が発見され、コンクリートに密封後、海中投棄された。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <p>・昭和48年5月31日に、自衛隊が千葉県市川市で発見された旧軍毒ガス試臭器（80アンプル）1個をコンクリートに密封した後に海中投棄したと記載されている〔1〕。</p> |

| | |
|--------|--|
| 事案名 | 千葉市の事案（千葉県12-6） |
| 分類 | 発見・被災・掃海等処理 現在の状況 |
| 資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・『千葉日報』昭和37年8月24日〔1〕 ・『千葉日報』昭和45年6月9日〔2〕 ・『毎日新聞』昭和45年6月9日〔3〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔4〕 ・「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告(案)」〔5〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査依頼について(回答)」平成15年10月15日〔6〕 |
| 資料内容概要 | <p>千葉県千葉市においては、昭和37年にイペリット弾9発が発見され、1発を解体した運転手2名が被災している。昭和45年には、イペリット缶8個が発見され、ガスがもれていた小型4個は現場で処理され、大型4個はコンクリート詰めにして処理された。さらに同年にはイペリット容器が4本発見されている。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和37年8月21日に、千葉市の旧陸軍演習場跡地から住民が掘り出した迫撃砲イペリット弾9発のうち1発を譲り受けた運転手2名が、佐原市で解体して被災した〔1〕。 ・昭和45年6月5日から6月8日にかけて、千葉市（当時）の陸軍防空学校跡地の会社職員宿舎建築現場で基礎工事の掘削中にイペリット缶8個（直径43cm、高さ70cmのもの4個と家庭用消火器大のもの4個）を発見した。同年6月8日午後、自衛隊の調べでイペリットと判明し、缶の腐食によりガスがもれていた小型の4個については現場で処理した。残る大型4個についてはコンクリート詰めにして処理した〔2〕〔3〕。発見されたのはイペリット缶4本とその他で、コンクリート密封して海中投棄したと記載されている〔4〕。 ・昭和45年6月8日から12日にかけて、イペリット容器が4本発見された〔5〕。 ・昭和45年12月4日に、千葉市でイペリットとシアン化合物アンプル100本が発見され、海中投棄（千葉県警）と記載されている〔4〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉市の旧陸軍演習場跡地は農場になっており、過去に不発弾の発見事案がある。農場には灌漑用の井戸が一本あるが、飲料水は県営水道を利用している〔6〕。 ・千葉市（現在地）の陸軍防空学校跡地は、昭和46年5月から会社職員宿舎となっている。地下水の利用はない〔6〕。 |